

霧ヶ丘つだ病院
理事長・院長 津田 徹 様

岐阜県医師会
会長 小林 博

岐阜県医師会県民公開講座

「教えて！COPD ～ガンだけじゃない！タバコで起こるコワイ肺の病気～」における
講師依頼について

謹啓 梅雨の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、岐阜県医師会では、岐阜県における慢性閉塞性肺疾患に係る医療提供の現状及び課題を明らかにし、その改善に向けた方策を推進するため、平成23年度より岐阜県から慢性閉塞性肺疾患（COPD）対策事業を受託しております。

今年度は本事業の一環として、県民のCOPDへの認知度を高め、その疾患の予防ならびに早期発見、早期治療へつなげ、主原因であるたばこに関する知識を深めることを目的として、県民公開講座を開催することといたしました。本県民公開講座を通じ、一般県民の方々と共にCOPDに対する理解を深めたいと考えております。

この度、東濃中央クリニック院長 大林浩幸先生（本会COPD対策協議会委員長）を通じまして標記県民公開講座での特別講演講師をお願い致しましたところ、ご多忙中にもかかわらずご快諾賜り誠にありがとうございます。本県民公開講座は、大凡別紙1のように予定しておりますので、よろしく願い申し上げます。

なお、県民公開講座に向けて諸準備の都合上、下記事項につきお知らせいただきたいと存じますので、ご多忙中恐縮ですが何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

1 日時

平成30年1月13日（土） 第1部13：35～、第2部15：10～

2 場所

岐阜市文化センター 1階催し広場

岐阜市金町5丁目7-2 TEL:058-262-6200(代)

3 ご講演予定時間

別紙1企画書(案)をご参照下さい。

4 チラシを作成します関係で、肩書き及びテーマにつきまして、7月21日(金)迄にFAX(**別紙2**にて)又はMAIL(a-keig@gifu.med.or.jp 安藤宛)にてお知らせ下さい。

5 次の事項につき、11月24日(金)迄にお知らせいただきますようお願い致します。

(1) 講師紹介資料・講演確認資料 (**別紙3**にて)

(2) ご講演にあたり、来場者に簡単な抄録(1000字程度)を配布致したく存じますので、その原稿をMAILによりお送りいただきますようお願い致します。

担当者	岐阜県医師会事務局 安藤		
TEL	058-274-1111	内線	204
FAX	058-271-1651		
E-mail	a-keig@gifu.med.or.jp (安藤)		

COPD(タバコ肺)

まずは肺年齢チェックと禁煙、呼吸リハビリテーションを含む治療まで

COPD(Chronic Obstructive Pulmonary Disease:慢性閉塞性肺疾患)はタバコが世の中からなくなれば、ほぼなくなる病気です。

診断されるのは 65 歳頃。若い頃から吸ったタバコが原因で、咳や痰が長く続く、いつの間にか階段を登らない生活となります。息切れなどの症状が出てくるのは高齢になってからですし、タバコによってジワジワと肺が壊れていき、気づいた時には進行しています。

早期発見には肺機能検査が必須です。「タバコを吸っている」、あるいは「吸っていた」方は肺年齢のチェックをしてみましょう。肺機能検査はまだまだ普及が足りません。

禁煙外来のCMで私が小学校の教室でお父さんと子供さんに話しているように、40 歳台までにタバコをやめると、がんや動脈硬化といったタバコによる病気にかかりにくくなり、非喫煙者とほぼ同じ余命となります。COPDにおいても禁煙は最大の予防であり、治療となります。

COPD になってしまった方々はどうしたら良いのでしょうか。まずは気管支拡張剤などを使い空気を取り入れやすいようにします。肺に直接届く「吸入薬」が上手に使えることが重要です。

平地を歩いていても同じ年齢の人と同じスピードで歩けない、階段を最近使ったことがない方は呼吸のリハビリテーションが必要です。

進行してくると、歩行時に酸素が下がり、在宅酸素療法が必要になりますが、息切れをとるためには酸素だけでは不十分です。体重が落ち、筋肉が減って、呼吸に使う筋肉、歩くための大腿の筋肉がやせてきますので、栄養をよくとり、呼吸リハビリテーションを行うことが大事です。抑うつ状態を合併することが多いので、日常生活を楽しくする工夫も必要です。

タバコによる病気で困っている方々が多い反面、財務省がタバコ事業法によりタバコを保護している立場をとっているため、日本ではタバコ対策が進んでこなかった状況があります。WHO(世界保健機構)の国際条約であるFCTC(タバコ枠組み条約)を日本は批准しており、タバコに対する対策を取らなければいけないのですが、健康増進法(受動喫煙防止条例)の改正も進んでいません。東京オリンピックまでに、社会的なニコチン依存症から脱却するように頑張りましょう。